



令和8年度柏市地域防災計画の改定 及び 関連計画の策定について

令和7年度 柏市防災会議

柏市危機管理部 防災安全課/危機管理政策課



本日の目的とゴール

本日の目的

柏市地域防災計画の“課題”と“改善の方向性”を共有

本日のゴール

- ① 柏市地域防災計画の課題を理解する
- ② タイムライン(TL)・アクションプラン(AP)を作る必要性を理解する
- ③ 改定後にどう変わるかイメージが持てる

柏市防災のMISSION、VISION、VALUES

柏市では、柏市防災のMISSION(存在意義)、VISION(目指す柏市防災像)、VALUES(大事にしたい価値観)を定めたいと考えています。

MISSION

市民・職員が動ける防災体制をつくる

VISION

誰もが自分の役割を理解し、災害時に迷わず動けるまちへ

VALUES

共に考え、動いて確かめ、学び続ける

2

MISSION

存在意義

MISSION

市民・職員が動ける防災体制をつくる

柏市防災1.0



構成要素の全項明示

柏市の地域防災計画として必要な構成要素を全て文字として明記した防災

柏市防災2.0

実践・時限目標型の追及

情報量を精査し、簡潔、明瞭な分かりやすい計画を目指した防災



柏市防災3.0

市民・職員が動ける防災

柏市における防災と災害対応を自助・共助・公助の観点で能動的に動ける防災を目指す

MISSION

柏市防災1.0で項目の洗い出し、柏市防災2.0で全てを1冊に纏めたものから、柏市防災3.0では市民・職員等が「動ける防災」を目指す。

- ✓ 自助・共助・公助に関わる人が動ける基準をつくる
- ✓ 予防～応急～復旧のフェーズごとにそれぞれ責務を与える
- ✓ 市民と町会と行政等が共通の敵に立ち向かうためのチームづくり

柏市防災4.0

防災・減災へ向けた進化

3

VISION

誰もが自分の役割を理解し、災害時に迷わず動けるまちへ

災害から自分や周りの人を守るために、

一人ひとりが「自分は何をすべきか」を知り、すぐに行動できることが大切です。

住民・地域・企業・行政がそれぞれの役割を共有し、

普段から備えを重ねることで、非常時には迷いなく動ける力が生まれます。

互いを支え合い、状況に応じてすばやく行動できる、

そんな“動ける防災のまち”を、私たちは実現していきます。

4

VALUES

大事にしたい価値観

VALUES

共に考え、動いて確かめ、学び続ける

01 共に考える

— 市民・職員・企業が協働で備える —

災害への備えは、行政だけでは完結しません。
地域に暮らす市民、支える企業、そして行政が、それぞれの立場を越えて「一緒に考える」ことから始まります。
誰かに任せる防災から、共につくる防災へ。
地域の課題を共有し、現場の知恵と行政の仕組みを掛け合わせることで、実行力のある体制が生まれます。

02 動いて確かめる

— 計画だけでなく、訓練・行動で磨く —

防災は“紙の上の計画”で終わらせては意味がありません。
実際に動き、確かめることで、初めて本当の力になります。
訓練やシミュレーションを通じて計画を現場に落とし込み、できたこと・できなかったことを可視化していく。
「行動によって学び、改善する」その繰り返しで、動ける防災体制を育てます。

03 学び続ける

— 経験を次に活かし、常に改善する —

防災の知識も仕組みも、社会の変化とともにアップデートが必要です。
災害対応の経験や訓練の気づきをそのままにせず、次の行動に結びつける。
人も組織も、学び続けることで成長します。
変化を前向きにとらえ、学び合う風土こそ、災害に強いまちの礎となります。

5

柏市地域防災計画の「課題」

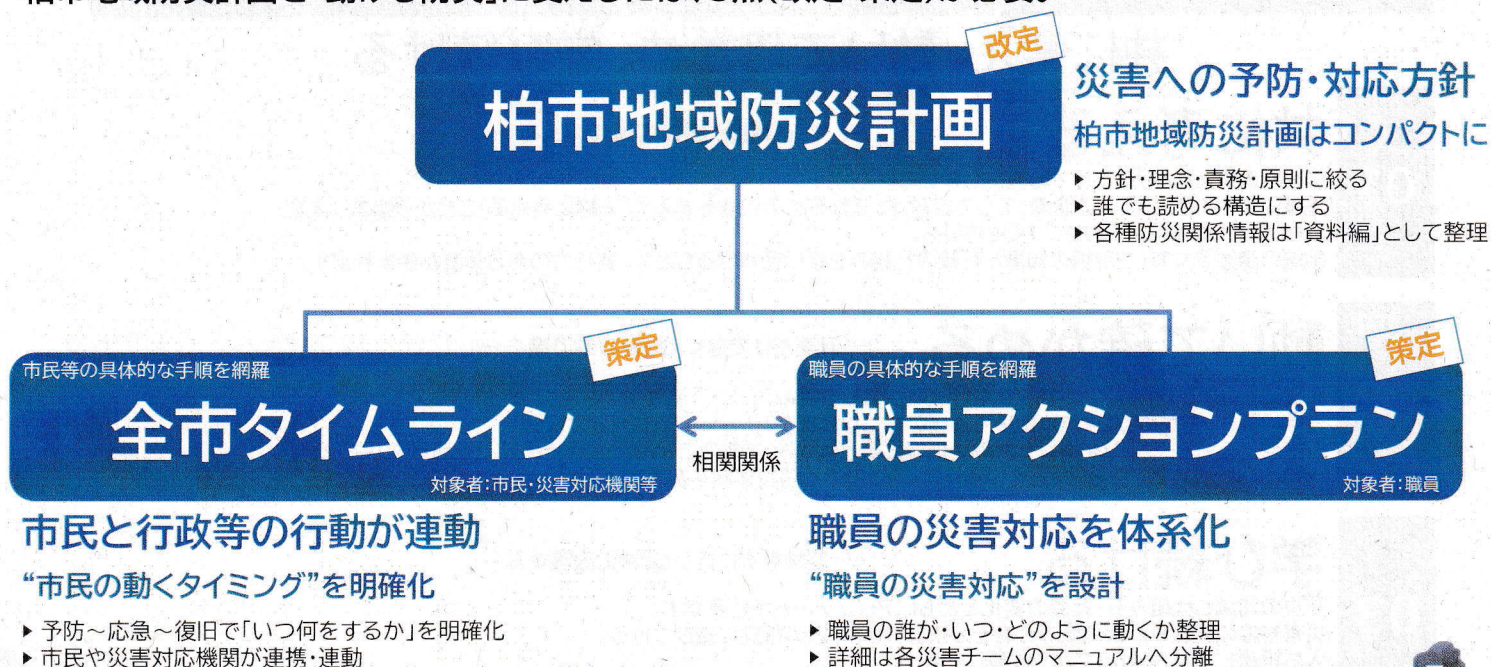
柏市地域防災計画の課題は“構造的な弱点”があることです。

	柏市地域防災計画の構造的な弱点	構造的な弱点の理由
1	市民行動の“判断基準”が 計画に明示されていない Ex.避難のタイミング・行動が不明確な部分があるので、避難判断が遅れる	市民の行動に対する具体性が不十分 Ex.現在の地域防災計画では、市民の動きを十分に考慮した設計になっていなかった
2	職員行動が“過去の経験”に 基づく対応になりがち Ex.誰が、いつ、何をすべきかが体系立てて整理されていない部分があるので、初動から対応が混乱することが想定される	職員の行動が時系列での具体性が不十分 Ex.注意報 → 警戒 → 警報レベルに応じた行動が具体的に記述されていない部分がある
3	横に繋がらない計画になっている Ex.関係機関の動きの把握が難しく、災害対応の遅れや非効率化の恐れ	関係機関を横断した連携性が不十分 Ex.情報・担当・判断基準が災害種別ごとに分断されているので、統一感に欠ける
4	自助・共助・公助の それぞれの役割が不明確 Ex.柏市の防災計画の中で自助・共助・公助に対する役割を明確に記載できていない為、人によって捉え方が異なる	自助・共助・公助の役割と 責任範囲の整理が不十分 Ex.自助・共助・公助の理念は示されているものの、災害時における具体的な行動基準や責任範囲まで設計されていない

6

では、何が必要なのか？

柏市地域防災計画を「動ける防災」に変えるには、3点(改定・策定)が必要。



7

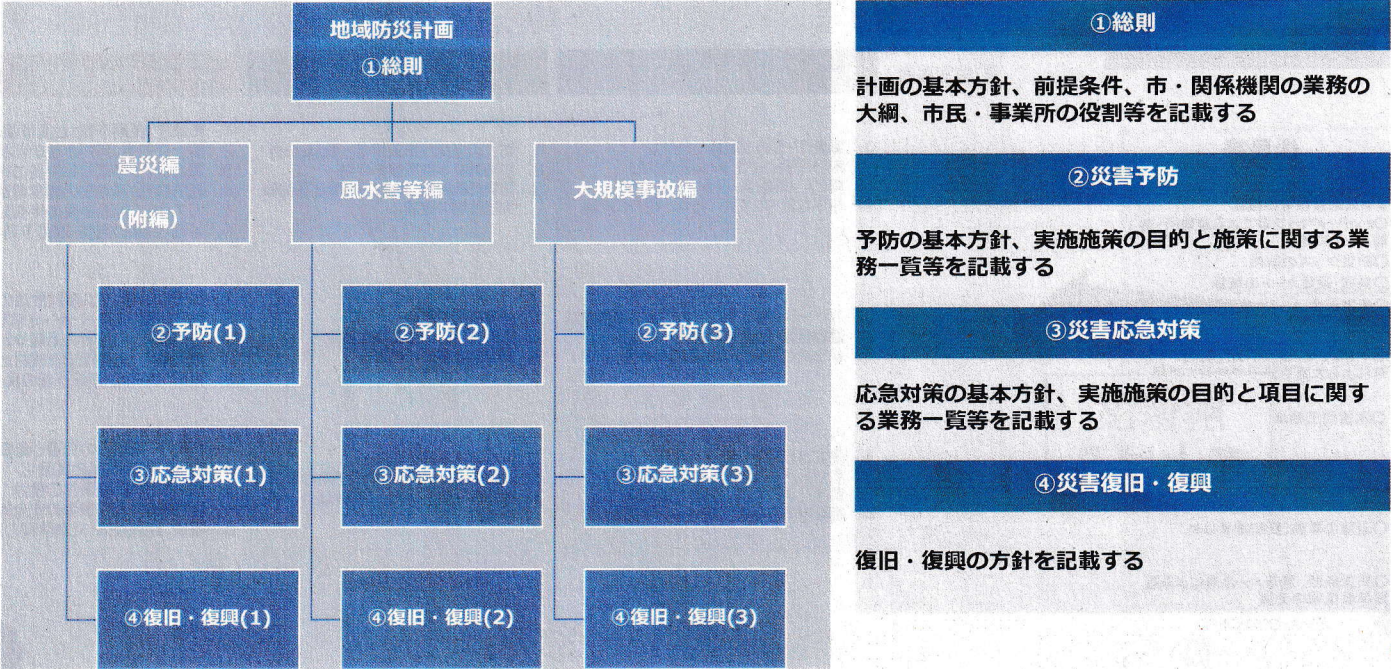
強化すべきポイント3点

柏市地域防災計画を「動ける防災」に変えるために強化すべきポイントは下記の3点です。

01 判断の明確化 市民と行政が同じ時間軸で動く 1. 避難などの判断基準の明確化 2. 関係機関と連動の明確化 3. マイタイムラインの普及の基礎
--

柏市地域防災計画の改定イメージ

地域防災計画の改定のイメージを示す。**基本方針や理念などの変動しにくい内容に限定し**、状況の変化に応じて更新が必要な項目は、タイムラインやアクションプランに記載する。



全市タイムラインの策定イメージ①

台風時における全市タイムライン策定のイメージを示します。(※下記、タイムラインは、国土交通省「タイムライン(防災行動計画)策定・活用指針」を参考)

河川名: ●●川
観測所名: ▲▲上流

台風の接近・上陸に伴う洪水を対象とした、直轄河川管理区間沿川の市町村の避難勧告等の発令に着目した**タイムライン**(防災行動計画)(案)

表記機関

市民や市役所、防災関係機関である国、県、ライフライン機関等で表示する

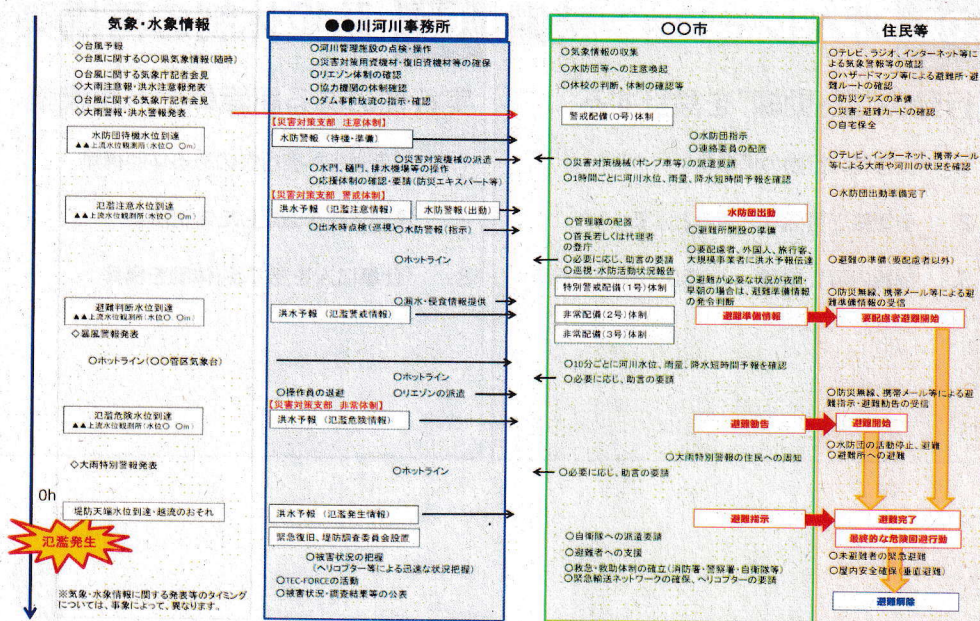
構成内容

「いつ」「誰が」「何をするか」を加えた3要素に着目し、時系列で整理する

策定項目

地震や風水害など災害種別の中でも、災害フェーズごとに策定する
特に市民に関係するものを選択

Ex.地震編の廃棄物処理タイムライン
風水害編の水害対策タイムライン



10

全市タイムラインの策定イメージ②

台風時における自宅保全の事例について、全市タイムライン策定のイメージを示します。

市町村の
(案)

例: 自宅保全

市民

市役所

関係機関

住民等

- テレビ、ラジオ、インターネット等による気象情報等の確認
- ハザードマップ等による避難所・避難ルートの確認
- 防災グッズの準備
- 災害・避難カードの確認
- 自宅保全

- テレビ、インターネット、携帯メール等による大雨や河川の状況を確認

○水防団出動率

解像度を
上げる

○避難の準備(要配慮者以外)

○防災無線、携帯メール等による避難準備情報の受信

要配慮者避難開始

3日前
(気象情報の発表)

1. 気象庁・市の台風情報を確認
2. 家の周囲の排水溝・側溝を掃除
3. 雨とい・屋根瓦・ベランダを点検
4. 懐中電灯・非常食・ラジオ・電池を確認

2日前
(大雨・暴風警戒)

1. ハザードマップで自宅の危険性を再確認
2. 避難経路・避難先を家族で共有
3. 車を高台や安全な駐車場へ移動

1日前
(大雨・暴風警戒)

1. 飛ばされやすい物を片付け
2. 窓や雨戸を補強、養生テープで補強
3. 風呂に水をため、停電・断水に備える
4. 避難用の荷物を玄関近くに準備

1. 防災担当課が気象情報を収集・分析
2. 災害警戒本部設置の準備
3. 防災行政無線・公式SNSなどで情報発信体制の確認

1. 避難所開設準備
2. 避難情報の発令基準を確認
3. 要配慮者名簿の再確認

1. 災害警戒本部を設置
2. 避難所を一部開設・開設予定の周知
3. 地域自主防災組織へ注意喚起メールを送信

1. 気象庁: 長期予報・台風情報の発信
2. 国土交通省: 河川水位の監視強化
3. 電力会社: 停電対策要員の待機配
4. 通信会社: 基地局の非常電源点検
5. ガス会社: 対策要員の待機配
6. 報道: 台風の発生・進路予測の報道

1. 国土交通省: ダム事前放流の検討
2. 医療機関: 簡易ベッド・非常電源確保
3. 介護施設: 利用者の避難体制確認
4. 建設業者: 応急復旧資材の準備
5. 報道: 暴風域・豪雨予想の具体報道

1. 気象庁: 警報級の見直し発表
2. 国・県: 河川監視の高度化
3. 鉄道会社: 計画運休の検討
4. 医療機関: 入院患者の安全対策
5. 報道: 計画運休・交通情報の速報

11

職員アクションプランの策定イメージ

職員アクションプラン策定のイメージを示します。

防災後対応（共通）編

1. 本部運営対策

担当：危機管理部 防災安全課

業務の目的

災害対策本部を設置し、本部会議を開く。また、災害対策本部の設置について、市内、市民及び防災関係機関等に、通知及び公表する。本部会議では、参集職員及び関係機関並びに市民通報等の限られた被災情報に基づき、初動体制を確立し、各対策部の初動対応を確認する。また、各対策部での情報収集を指示する。

対策項目と時期

対策項目	実施 時期	防災 対策	危機 管理	消防 対策	土木 対策	衛生 対策	福祉 対策	その他
1) 災害対策本部の設置	11							
2) 災害対策本部会議の開催	12							
3) 本部長命令及び災害対策本部会議議定事項の伝達	13							
4) 1[臨時]情報収集・災害対策情報の整理・分析	14							
5) 1[臨時]情報収集(対策立案)	15							
6) 1[本部会議]情報のとりまとめ及び情報共有	16							

対策項目と手順

1) 災害対策本部の設置

●原則として市域の広域等により自動設置し、災害発生時対策を実施する。なお、資産管理課と連携して庁舎の使用可否について判断し、使用不能な場合は柏市業務継続計画(BCP)に定める代替施設にて対応を行う。

設置方法

柏市災害対策本部マニュアルに基づいた本部の設置を行うこと

柏市災害対策本部マニュアル P.2,3

●災害対策本部設置の通知及び公表

●本部会議の提示(災害対策本部参集人口)
●市各対策部、市民、防災関係機関、報道機関など
●LINE、X、メール等を活用し、本部設置等、市の対応状況を早期に発信する。

2) 災害対策本部会議の開催

●第1回災害対策本部会議(発災後1時間を目標)

●当面の対応方針(案)と、とりまとめ報告の形式に基づいて初動で判断している事項を整理し、各対策部で状況認識の統一及び当面の対応方針の伝達・共有を図る。

●次回会議の開催時期を決定し、それまでの間、各対策部において当面対応方針に基づく対策の進捗管理を行う旨指示する。

●次回会議開催前に判明した状況を各対策部でとりまとめ報告の形式に基づき整理し、総括対策部へ報告する旨指示する。

平時の対策

●災害対策本部の設置訓練

●毎年4月第1週に災害対策本部の設置訓練を行う。実際の運用を見据えた訓練内容で行う。



タイトル・担当部署

・地域防災計画の実施業務ごとに設定

・担当部署を明確に定める



業務の目的

・実施業務内で確実に達成すべき事項を具体的に示して記載



対策項目と時期

・対策項目を記載

・各項目の作業開始から完了までを示す

・受援が必要な対象業務を明記



対策項目と手順

・対策項目を達成するための手順を漏れなく記載

・誰がどのように実施するかを記載

・誰が見ても具体的な災害行動を行うことができるようにする



平時の対策

・平時に取り組むべき業務も具体的に記載

柏市防災はこう変える(Before / After)

柏市防災は、「計画のための計画」から、「動ける計画」へ進化させます。

Before

■ 行動レベル

市民も職員も“その場の判断”に依存

■ 市民の姿

避難情報が出ても「自分はまだ大丈夫」

■ 職員の姿

異動でノウハウが引き継がれにくい

■ 計画

計画書は“読まれない資料”

■ 訓練

訓練は「やること」が目的化

After

■ 行動レベル

市民も職員も“迷わず動ける”基準

■ 市民の姿

市民が自ら判断し、主体的に動き出せる基準

■ 職員の姿

新任職員でも即戦力になる仕組み化

■ 計画

計画は“実際に使われるツール”となる

■ 訓練

訓練は“TL・APで動ける”かを確かめる場に

計画改定を進める上での体制・仕掛け

市民・職員が『**動ける防災体制づくり**』を進めるため、

① 様々な市民、関係機関の意見を聴く機会を広く確保

【対応の一案】

- ➡ **防災士**資格取得助成制度により資格取得者へのヒアリング
 - ➡ 「**女性目線の防災対策**」を進める一助とするため、関係者・団体へのヒアリング
 - ➡ ふるさと協議会連合会や地元の防災講習会等で自助・共助を担う組織へのヒアリング
- ※その他に広報かしわでの周知、パブリック・コメントでの意見聴取等

② 全庁での防災体制プロジェクトを立ち上げる

【対応の一案】

- ➡ **部局別ワーキング会**設置、意見交換
- ➡ **被災地支援経験職員 座談会**での意見聴取
- ➡ **女性職員へのヒアリング**
- ➡ 危機管理部プロジェクト・チームに**有志の職員を招集**

14

柏市防災体制構築へ向けたロードマップ

⑧ R8年度第2回防災会議

(仮)目的:改定内容に関する最終確認

前回会議の提言及びパブリックコメントを踏まえた柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランを提示

⑦ 計画案のパブリックコメント

市民の皆様が柏市地域防災計画・全市タイムラインに対するパブリックコメントをもらう

⑥ R8年度第1回防災会議

(仮)目的:改定内容に関する確認

関係機関からの意見集約した初稿としての柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランを提示

③ 地域・関係者・庁内に説明

柏市防災が課題に対して、取り組む必要性について、地域・関係者・庁内に対して共通理解を図る

① R7年度防災会議

目的:課題の共通理解と今後の進め方の共有

今後、全市的に防災体制強化を進めるため、
・「実行性のある防災体制の構築が必要」
・「いつ・だれが・どこで・何をするか」を明確にした計画
・平時からの訓練の実施の重要性を確認する

⑨

⑨ 柏市地域防災計画・タイムライン・アクションプラン 運用開始

地域・関係者・庁内が把握した柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランが完成し、災害時、能動的に動ける防災体制を運用開始

⑤ 意見集約結果の共有・確認

地域・関係者・庁内の意見を共有し、理解を得る

④

④ 地域・関係者・庁内からの意見集約

地域・関係者・庁内に対し計画改定案について、意見集約

③

②

② 「素案」を作成・納品

柏市地域防災計画の修正を踏まえ、それに基づいた柏市地域防災計画・全市タイムライン・職員アクションプランの地域・関係者・庁内向けの改定計画の協議案を納品

①

15

まとめ

地域防災計画は「計画のための計画」から、「実行」性あるものへ作り替え、動ける防災へ。

- **計画の課題を理解することで、改善点を明確にする。**
災害時に実際に起こり得る混乱を具体的に想像し、改善すべき点を明確にしました。
- **「動ける防災」に変えることで、計画に“実行できる力”が生まれる。**
計画の実行性を高めるために、3点(改定・策定)が必要です。
- **改定後は、市民・職員・関係機関等の役割が明確になる。**
新しい計画では、「役割が明確」「行動が具体」「時系列の流れが見える」という形になり、これまで曖昧だった判断基準が明確になり、実際に動ける防災として整理されます。



ご清聴ありがとうございました。